阿倍野区

阿倍野区学校教育フォーラム　～学校選択制と中学校給食について～

○ 平成24年4月21日（土）14時～15時45分
○ 阿倍野区民センター　大ホール
○ （阿倍野区）村山区長
（教育委員会）小川学校配置計画担当部長、望戸学校保健担当課長代理、高橋主任指導主事

【区長あいさつ】

現在大阪市では、小・中学校の学校選択制、中学校給食の導入について、各区におきましてフォーラムを開催し、区民の皆さまの意見を伺い集約しています。今後、公募の区長が、導入するか否か等を含めまして決定させていただきます。

―区長から学校選択制、中学校給食について説明―

【質疑応答等】

・ 現在学校区が存在し、教育委員会、区長が、越境は差別だというビラを配ったと思いますが、それとの関わりはどうなっているのでしょうか。あたかも学校選択制が決まっているかのような説明でしたが、学校選択制をしないという選択があるのかどうか。
西成区との境界線にある校区には、西成区の生徒さんも来ていると思います。ということは西成区の人も選ぶ権利があるはずです。そのへんとの兼ね合いはどうなるのでしょうか。
選択制になると大規模校はどんどん大規模校になって、小規模校は淘汰されていくのではないか。
実際のところ、阿倍野区の民意は、学校選択制についてどうなのかわからない、区長としての説明をお願いします。
学校選択制になったら障害児はどうなるのか。大阪は、障害児が校区の学校へ通うという取り組みをしています。障害児は圧倒的少数派ですから、民意は反映されないので、どうなるのか。具体的には、1名の障害児が行きたいといって行かなくなったら、そこの学校の支援学級は閉鎖されることもありえる。そうなったら障害児は切り捨てられるのではないか。

（教育委員会事務局）

学校選択制に関しての案というものは、現時点では持ち合わせていません。熟議を今月末スタートさせますが、そこで議論をし、制度設計をします。

大阪市においては、昭和 40 年代から越境入学の防止推進事業を進めており、この方針は現在も変わっておりません。学校選択制をやったからといって、越境入学の取り組みを後退、あるいは廃退させる予定にはしていません。

選択制に関しては、このフォーラムを 5 月末にかけて 24 区全てで実施する予定にしています。フォーラムとは別に、保護者アンケートをとって、皆さんの意見の集約をきちんとしていきたい。同時に教育委員会では、仮に選択制を実施する場合には、大阪市においてはこういう選択制が考えられるのではないかという熟議を、この秋にかけてさせていただきます。公募区長が、この夏に着任する予定になっていますので、熟議での制度設計をお示ししながら、区長は区民の皆さんの意見を聞きまして、最終的にその区ごとに選択制を実施するのか、実施しないのかという決め方になろうかと思います。市長も議会で、「このような保護者や区民のニーズを整理した結果、仮に選択制を実施しないという声が多数になっている場合は、選択制の実施が見送られるということも、一つの結果としてあり得るのではないか」という答弁を行っています。現時点で選択制の実施ありきではありません。

今回の選択制は、本市の場合は、区ごとでの実施を考えております。ただ、ご指摘にあったように、西成区の山王地区は金塚小学校の校区になっていることは事実です。行政区との概念と一致していないことも事実です。このような事例は、他にもありますので、熟議の中で議論していきますし、具体的な該当地域に関しては、阿倍野区長と西成区長とも協議させていただいて、どのようにするか考えていきます。

小学校も中学校も抱えている教室数はまちまちです。選択制を実施し、希望が多いからといって校舎を増築することは一切ありません。現有施設の範囲内での受け入れを考えています。校区の子どもでいっぱいになってしまう学校は、他の地域から選ぶ対象から外れるのではないかと思います。その校区にお住まいの方が地元の学校に就学する場合、手続きの必要はありません。反対に校区以外の方が希望する場合に手続きが必要になります。校区外からの希望者で受入れ人数が超えた場合は、抽選が発生します。今、実施されている自治体は、すべてそのやり方で行っています。

障害のある児童生徒の対応ですが、大阪市では小学校に入学する段階で、保護者と相談し、地元の学校に就学するのか、特別支援学校等に就学するのか、保護者のニーズを踏まえた対応をしています。最近の傾向としては、地元の学校に就学させたい、地元のお子さんと友達になって、その中で生きていきたいと、地元の学校への就学を選ばれる保護者の方が、圧倒的多数になっています。選択制において障害のある児童生徒の対応をどうするのか、今後熟議の中で議論していきますが、市長も「これまでか

ら個別の思いを尊重しながら対応してきましたので、今後とも、これまでの対応を踏まえた丁寧なやり方を考えたい」と議会答弁しています。

（区長）

最終的には公募区長が、フォーラムを通じたご意見や、熟議で検討された内容を踏まえて、改めて区民の皆さんの意見を伺って、最終的な決断を行うということですので、その時点で、阿倍野区民の方の民意というものがわかるということになります。このフォーラム以降、保育所・幼稚園・小中学校の保護者の方を対象に、アンケートを実施する予定です。フォーラムでのご意見、アンケートの集約を、現時点での阿倍野区の皆さんのご意見として公募区長にはお伝えし、教育委員会の熟議の場に提供することを考えています。

・ 選択制が入った場合、その校区の生徒は、問題なくその校区の学校に行ける。校区外から希望した子どもの数が、受入れ人数を超えた場合は、抽選が発生するとなったら、抽選にもれた保護者や子どもの気持ちは複雑だと思います。大阪が一生懸命やってきた越境入学根絶という形は大事にしながら、地域を大事にしていただきたいと思います。

（教育委員会事務局）

大阪市の学校だけでなく全国どこの学校も、施設的には一定の制約があるという共通の課題があります。どこの教育委員会も抽選は避けたいという思いを持っているとお聞きしていますが、結果として受け入れを超える希望があった場合は、抽選とせざるを得ない。抽選がお子さんに与える影響は、悩みの一つであるとお聞きしています。抽選になれば、お子さんに対しての影響もあることも踏まえて、選択制を利用して指定校以外の学校に希望を出すのか、出さないのか、十分にご家庭の中で検討をしてほしいということを、繰り返し説明されているとお聞きしています。実際に東京都でも、希望を出している保護者の方は平均2～3割と聞いています。

学校では校長先生をはじめ教員の皆さんが地域、保護者の方と連携を図りながら、多彩な教育活動をやっていただいていることは、教育委員会としても十分認識しています。仮に学校選択制を実施した場合、各学校間で格差をつけるのではなく、すべての学校がよりよい方向に進むという、メリットを伸ばしていきたいと考えています。

・ これから熟議を重ねると言うが、どう見てもありきではないかと思ってしまいます。今のままでいいと思ってらっしゃる方も、たくさんおられると思います。なぜ今の時期にやるのかという話になります。

地域の皆さんがたくさん活動されていますが、学校選択制が導入されると、地域のつながりはどうなるのか危惧します。
与えられた校区の中で通って、多様な生徒がいること、たくさんの地域の方が携わっていることを、制約の中で学び、成長していくことの果たす役割が大きいかと思います。
大規模校小規模校の問題も、阿倍野区の校区割りがどうなのかを踏まえて、ご議論いただければと思います。
決定できる民主主義という意味であれば、こういったフォーラムを、きちんとした市の案を出してから、大多数の意見集約を長時間かけてする場を設けていただきたい。
お子さんが小学校に通ってない方は、小学校区の活動に参加してみてください。地域の皆さんに守られている、校区のお祭りで地域の皆さんが必死にやられている、子どもが地域清掃している中にどれだけ地域が関わっているか、見ていただいてお考えください。
こういった現状を踏まえて議論しましょうと、ぜひ区長さんの口からおっしゃっていただけたらと改めて思いました。

・ 熟議を重ねるにあたって、責任感のない方々の熟議はいらないと思います。選択制がもしも進んだ場合、大規模校がある一方で、小規模校である金塚小学校が統廃合の対象になり、廃校になると、経費がかかるので売られると思います。公立小中学校は、災害時に収容避難所に指定されていますが、地域の避難所が無くなるということまで考えて、選択制を選んでおられるのでしょうか。選択制を選んで、3～4 年でやはりこの選択制が良くないと、他県と同じように廃止になった時点で、統廃合で学校が無くなっていたらどうなるのでしょうか。

(教育委員会事務局)

東京都で1番最初に導入した品川区が実施されてから、11～12 年が経過しようとしていますが、東京都で選択制を実施した結果、統廃合になった事例は、聞いておりません。小・中学校が地域の避難所になっていますし、地域の交流場所になっておりますから、学校は、学校施設ではありますけれども、併せて地域のいろいろな機能を合わせた施設としての役割も果たしていることは、十分認識しています。他区の事例をご紹介させていただきます。統廃合があれば施設的に学校があくということは事実ですが、地元の方と十分にお話をさせていただいて、地元の防災施設の部分は残して、それ以外の部分を売却いたしました。地域の防災が、その学校がなくなることによって、すぐ立ち行かなくなるということは、教育委員会としてもあってはならないと思っていますので、万が一、統廃合という事例が選択制とは関係なく生じた場合、地域の方と十分に協議して、できるかぎり安心できる形での施設の跡地利用について、今後とも取り組んでいきたい。

・ なぜ今具体的な提案もなしに選択制が出てきているのか疑問です。今日のフォーラムはひとつの取っ掛かりでいいのですが、各小学校区、中学校区で具体的に進めていってほしい。

・ 障害児に関しては越境を認めてほしいという声が、私の周りにたくさんあります。障害児の対応に関しては、今現在特色があります。小学校によって全く違います。仲良し学級、支援学級のない学校もあります。よい学校のあるその校区に引っ越していくお母さんも、たくさんいると聞いています。障害児の対応についても熟議をしていただけるということですので、当事者の生の声を幅広くくみ上げていただきたいと思います。

（教育委員会事務局）

熟議は、だいたい月２回、議論状況等によって、もう少し回数を重ねていきたい。
各区でフォーラムを開いていますが、回数に限界がありますので、仕事等で参加できない保護者の方もたくさんおられるのではないかと思っています。中学校単位でＰＴＡの方と意見交換したいというご希望があれば、遠慮なく市ＰＴＡ事務局、もしくは教育委員会にお申出ください。期待していること不安なこと、賛成・反対の意見、忌憚の無い意見をその場で言っていただければと思っております。

【区長あいさつ】

学校選択制・中学校給食、阿倍野区におきましては、今日からがスタートと思っております。これから区役所では、アンケートもさせていただき、その中の意見も公表してまいりたいと思っています。本日は貴重なお時間をいただきありがとうございました。

意見書での主なご意見　～阿倍野区学校教育フォーラム～

○ 学校選択制について

（賛成）

・各学校が特色を持ち、保護者の意見を取り入れるなど活性化することは、非常に喜ばしい。
・学校選択では小学校の間は、友達との連絡や遊ぶ際に危険や友達づきあいが難しくなる為、もし導入するなら中学校からで良いかと思う。
・越境に過敏な大阪の体制は遅れていると感じていた。それぞれの学校が私立のように独自の取り組みを行い、より良い教育の場になるよう努力をすることになるので、ぜひ進めていただきたい。途中転入でも選択ができるようにしてほしい。
・特色ある学校づくりは学校選択制以外でも可能だと思う。一部の地域の実施には賛成である。クラブ活動の選択等、体力的にも遠くなっても通えるメリットはたくさんあるので、中学校の選択制は賛成。
・先に実施している自治体同様、まずやってみてから各地域の実情に沿うように見直しをすれば良い。
・隣接区域選択制に賛成。
・選択制は在籍中の児童についても選択させてほしい。
・通学の時間、学校の教育方針、特色など親が見て、考え選択できるので、自由選択制もしくは隣接区域選択制。

（反対）

・小学校低学年の場合、通学するのに安全面のことや、やはり地域とのきずなが希薄になるのではと心配。
・他の所では廃止していっているのに逆行する意味がわからない。まず統廃合や校区をきちんとするべき。
・東京の例を出しているが、東京と大阪は違うし、真似をする必要はない。
・地域で子どもを育てると言ってきて、その核になる学校を育てて活動してきたのに、急に違うことを言うのはおかしい。
・小学校は地域との関係もあり、小学校の子どもが遠くまで通うのは、安全面でも問題がある。
・親のうわさ話などで人数にかたよりが余計出てしまうし、地域とのかかわりもうすくなる。
・この春まで越境入学をなくしましょうというプリント類を配布しておきながら、このフ

ォーラムはあたかも選択制を導入しようとしている。何を基準に選択制を導入しようとしているのか大変不明確である。

・子どもの負担だけが増えるのではないか？

・小学校を利用した行事や学校行事にあわせた子ども会の行事を通じて、保護者間の結束が高まると考えている。地域密着という観点から、小学校は本来通りの校区制が良い。

・教師が外からの評価ばかりに力を入れて、本当に大切なものを見失いそう。また、子ども同士が、放課後遊ぶのに遊びの行動範囲が広がり、よくないこと、注意すべきことも増えそうで心配。本当に行きたい学校があるのなら転居していくと思うので、わざわざ選択制をとらなくてもいい。

・公立の学校のレベルはどこも同じだと思っている。選択制を導入するよりも、学校間の情報交換を行いながら、魅力ある学校づくりをするのもよいかと思う。

・中学校では部活などで特色は出せるような気がするが、小学校では他との差別化は難しいと思う。現状、小学校では地域と様々な取り組み（夏祭り等）を実施しているが、これらのつながりが薄くなり、防犯等の協力に影響しないか心配。

・阿倍野区は、すべての地域が落ち着いており、学校を中心に活動が盛んに行われていると思う。仮に学校選択制を導入したとしても、児童・生徒の移動はほとんどないと思う。

・子どもを小学校からでも私立に入れたい人、中学校からだとかなり多くなっている。

・反対。まずマンモス校の廃止を先行せよ。

・選択制にいろいろな経費がかかると思うが、それに見合うだけのメリットには思えない。障害児の対応について、受け入れられる環境が無い知り合いがいる。どの学校にも支援学級を整備することのほうが大事ではないか。

・選択制によって、先生や教育計画にばらつきが出るのが不安である。

・学校間の格差が広がり、実施すべきではない。

・子供の安全が守りにくい。地域の特色が薄れる。障害ある子などにとって、自分の住む地域でよく知った子どもたちの中で過ごすことは大事だと思う。

・義務教育下で、学校間で競争するのは疑問が残る。

・中学校に関しては、いじめ等で転校したい場合もあるので、選択制ありでも構わないと思うが、小学校は校区外の通学が本人もたいへんだと思う。

・何を目的として学校選択制を導入するのかが不明確。

・学校の特色を出していくことよりも、義務教育は、どの学校も均質的な教育を心がけてもらいたい。

・学校選択制よりも、校区割の最適化を先にしてほしい。